

## 鳥取県立美術館整備基本構想最終報告提出に当たっての 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会会長談話

本日、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会の鳥取県立美術館整備基本構想の最終報告がほぼ取りまとまったので鳥取県教育委員会に提出します。

本委員会は、一昨年7月に発足して以来、1年8月にわたり13回の会合を重ね、鳥取県立美術館整備基本構想の検討を進めてきました。この間、出前説明会や県民フォーラムなどで県民の意見を積極的に伺うとともに、そうして伺った県民の声や折に触れて出される県議会の意見等も可能な限り反映してきた結果、昨年10月に実施された県民意識調査では、回答者の7割前後から、本構想の内容は適切であり県立美術館の整備は進めていくべきだと認めていただいたので、昨年11月には本構想の中間報告を行っています。

また、県民の関心を集めていた新美術館の建設場所については、県内市町から推薦等された13箇所の候補地について、鳥取県立美術館候補地評価等専門委員に専門的・客観的な視点からの評価を賜り、昨年6月には4ヶ所に絞り込んでいただきました。本年1月、これについても県民意識調査が行われ、本委員会で、専門委員の評価やその調査の結果も踏まえて総合的に検討したところ、様々な意見があり一致して建設地を選定するには至らなかったものの、過半数の委員は倉吉市ラグビー場が最適と判断されたので、こうした事実を提示して本委員会の検討結果とすることとしました。

かくて、本委員会が鳥取県教育委員会から作成を委嘱された、県立美術館を整備する場合の具体的な方向性を整理した基本構想がほぼまとまったことから、この度、その報告を行うものであります。前述のとおり、本構想の内容は長期間にわたる本委員会委員及び専門委員各位の真摯かつ丁寧な議論の結果であり、新しい美術館の基本的な方向性は明確に示すことができたと考えています。

従って鳥取県教育委員会には、その方向性を最大限尊重して県立美術館を整備・運営して欲しいと思います。特に、本構想の中で美術館の基本的な在り方として提示された「県民立美術館」の実現については、最大限の努力をお願いするとともに、今後、県中部に県立美術館が整備される場合には、従来県東部で殆ど唯一の総合美術拠点であった県立博物館に、相当規模の美術展が開催できる機能を維持しておくよう、重ねてお願いします。

平成29年2月20日

鳥取県美術館整備基本構想検討委員会  
会長 林田 英樹